
すずめ日和

つまり

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

すずめ日和

【Nコード】

N7117Z

【作者名】

つまり

【あらすじ】

起きて、食べて、寝る。

もちろん、毎日。

普通の日常だね。平和だね。

朝（前書き）

通勤・通学路に電信柱がある人は、見上げてみてください。

朝

「おはよう」

「おはよう」

そこらじゅうで聞こえる。

うるさいくらいに耳に響く。

僕もお気に入りの場所から、友だちや先生に言うんだ

「おはよう」

この場所からは、人間が歩いて行く姿が見える。

黄色い帽子のかわいい子供たち。

メガネをかけたサラリーマン。

不機嫌そうなゴミ出しおばさん。

みんな忙しそう。

でも、みんな楽しそうに見えるよ。

「おはよう」

「おはよう」

人間たちも、友だちや先生、近所の人に

「おはよう」を

繰り返す。何回も

気持ちいね。

今日はいい日でありますように。

小学生

赤い鞆を背負った小学生がいた。

あの中身が気になる。

どうしても、どうしても気になる。

試しにちよつと開けてみようか。

いやいや、人間怖いし。

でも、知りたい。

僕は、あの中身が知りたいんだあ。

父さんに聞いてみよう。

「あの中には、お金がどっさり入っているのだよ。」

なんて黒い親なんだ。

母さんはなんていうだろう。

「夢が詰まってるんじゃない？」

なんて能天気な親なんだ。

僕は思う。

あの中は、実は空っぽだったりするんじゃないかな。

あの鞆は空腹に悩まされてる。

かわいそうに。

無性に彼らの腹を満たしてあげたくなった。

こんど、口を開けた時に木の実を放り込んであげよう。

さあ、小学生よ鞆を開けるのだ。

開けてみて、中身が判明した。

これで僕は夜をぐっすり寝ることができる。

小学生（後書き）

私のランドセルの中身は、教科書とマンガとゴミとりコーダーでした。

雨上がり

雨が降るといやな気分になる。

ずっと、家の中なんてつまないよ。

ゲームしたって、本を読んだって。

だから、雨が上がると一斉に外に出るんだ。

僕も

怖いカラスも

人間たちも

太陽も

そして、みんなで歌うの。

歌は上手じゃないけれど、僕も

ピチ ピチ ピチ って

喜びの歌を歌ってる。

お天気気分がいいときは

カラフルなりボンを空にかけてくれるんだ。

いつかはそこを渡るのが僕の夢だよ。

雨はきれいだけれど、雨上がりは好きなんだ。

明日も、雨が降らないかなあ。

雨上がり（後書き）

私は、雨が降ってようやく降ってなかろうが、家の中で閉じこもってますが。

田舎

都会に憧れていた。

小さい時からずっと。

でも、一人じゃいけないから

もっと行きたくなってくる。

ある日、友だちと二人だけで行っただ。

もちろん、こっそりとね。

びっくりしたよ。

田舎と違って人がいっぱいいる。

建物がいっぱいある。

もうちょっとでガラス張りに突っ込みそうだったよ。

でも、人がいっぱいいても

建物があっても

僕らの仲間は誰ひとりとしていなかった。

どうしてだろう。

飛び続けてたら、そしたら分かったんだ。

僕らはフラフラになった。

疲れてるっていうか

都会って、空気が悪いみたいだ。

田舎が恋しくって

やっぱり田舎の方がいいって思えた。

田舎と都会、どっちが好き？

僕は今日も田舎の空を気持ちよく飛んでる。

田舎（後書き）

田舎に住んでいます。不便です。でも、田舎離れはできそうにないです。

サンタ（前書き）

プレゼント、今年ももらえなかったなあ。

サンタ

ジングルベル、ジングルベル

そんな声が聞こえる。

人間たちの声が聞こえる。

こんなに寒くて震えてる

僕らのことなんて知りもしないで。

今はお米もないから

おなかが減って仕方がないよ。

外に出ると、雪が降ってた。

真っ白。

そこに一人の老人がいた。

” どうしたの？ ”

” プレゼントを届けないと ”

” え？ ”

” まっている子供たちのために・・・ ”

だけど、老人は疲れ切っていた。

だから僕は思いついたんだ。

”手伝うよ”

楽しかった。

動くと寒さも吹っ飛ぶんだね。

いっぱい働いてプレゼントはあとひとつ。

”これは君へのプレゼント”

そう言って老人は消えた。

中に入っていたのは

あったかいマフラー。

うれしかったなあ。

今、知ったんだけど

今日はクリスマスだって。知ってた？

新年

年が明けた。

初日の出が終わった頃、

人間たちが神社に行く姿が見える。

建物にお辞儀をし、

コインを入れて、

鐘を鳴らし、

手を叩いて、

またお辞儀してる。

僕は木にとまり、それらを見ていたんだ。

すると、少女が「大吉」と書かれた紙きれを

おじいさんが「吉」と書かれた紙きれを

サラリーマンが「凶」と書かれた紙きれを

傍の枝にくくりつけてくる。

何の儀式かも

どうしてそれをするのかも

僕にはわからない。

正月が来たんだって、そんなこと

ぼくには関係ないのさ。

新年（後書き）

今年は、おみくじ何が出るかなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7117z/>

すずめ日和

2011年12月31日16時02分発行